

# きものの良さを味わう教育プログラムの提案

## ー 通過儀礼に着目した公立中学校での授業実践報告 ー

扇澤美千子<sup>1</sup>・川端博子<sup>2</sup>・長崎翔子<sup>2</sup>・石川敦子<sup>3</sup>

伊藤大河<sup>4</sup>・阿部栄子<sup>5</sup>・薩本弥生<sup>6</sup>

キーワード：教育プログラムの提案 通過儀礼 公立中学校

### 要 旨

本研究では、公立中学校できものを扱う授業を提案するために、以下の2つに重点を置いた教育プログラムを実践した。

#### ①『公立中学校教師が実現可能な授業内容にする』

本教育プログラムは、3時間構成とし、教室環境や授業のスタイルはなるべく普段の授業と変えないこととした。ゆかたの不足分はレンタルゆかたを利用し、グループでの着装を行った。中学1年生が対象であったため、着装技能の評価に重点を置くのではなく、楽しさや高揚感を感じさせることを目標とした。

#### ②『ゆかたの着装にとどまらない、きものの良さを味わわせる授業内容とする』

きもの文化全般への「理解」と「興味関心」に結びつけることができるように、人生の節目で行われる通過儀礼とそこで着用されるきものに着目し、「きものの種類・色柄と着用目的や意義に関する知識」を積極的に紹介した。

また、ICTを活用した中継授業により教室にいながらにして専門家の話を聞き、きものについての理解を深める手法についても検討した。

### 1. はじめに

平成19年に公布された学校教育法には、義務教育の目標として「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が示された<sup>1)</sup>。これらを受け、中学校学習指導要領技術・家庭科の家庭分野・被服領域には「和服の基本的な着装を扱うこともできる」が明記され<sup>2)</sup>衣生活の文化やゆかたの着装を扱う授業事例<sup>3)～4)</sup>も少しずつ蓄積されている。これまで薩本らが行ってきた「きもの文化の伝承と発展のための教育プログラムの開発」のプロジェクト研究<sup>5)～7)</sup>でも、平成21年度より、中学校・高等学校の生徒

1 茨城キリスト教大学

2 埼玉大学

3 さいたま市立土合中学校

4 学習院大学

5 大妻女子大学

6 横浜国立大学

を対象として『きもの』の中で最も身近なゆかたを取り上げ、その着装方法を学び、きもの文化について理解を深める体験型のさまざまな授業実践事例を発表している。

しかし、公立校できものを扱う授業を実施するためには、教材の準備・指導法・時間数やTA（ティーチングアシスタント）の確保等の授業遂行上の問題や、生活に生かす視点からのアプローチが難しいといった内容面の問題等、課題が残されている。そこで、本研究ではきもの実物展示が難しい場合やきもの文化・知識について専門家に説明してもらうことを想定し、ICT（情報通信技術）を活用することでこれらの問題解決に結びつけることができないかと考え、以下の2つを重点とした教育プログラムを提案し、実践した。

#### ①『公立中学校教師が、実現可能な授業内容とする』

きものを扱う授業においては、和服に関する基礎的知識や着装技能に関する問題の他、教材の準備、授業補助者の有無等の問題も多く、1人の教師でも実現可能な方法を模索していくことが求められている。そこで本研究は、衣生活の分野できものを扱う時間的余裕のない現状を踏まえ、授業は3時間構成とし、教室環境や授業のスタイルはなるべく普段の授業と変えずに実施した。男女で異なる着付けを取り扱うことから授業補助者としてTA1人の補佐を置いたが、保護者等の協力に対応できることを想定し、授業への関与は最小限にとどめた。中学1年生が対象であったため、着装技能の評価に重点を置くのではなく、楽しさや高揚感を感じさせることを目的とし、「関心・意欲・態度」「創意工夫」「知識・理解」の3つの観点にしぼって毎時の目標を設定した。ゆかたの準備に関しては、研究プロジェクトのゆかたを貸し出し、不足分はレンタルゆかたを利用した。レンタルゆかたは1枚につき1,080円（帯、腰ひも、伊達締め込）と比較的安価であり、電話やインターネットでの注文が可能、使用後の洗濯も不要で手軽に利用できる。

#### ②『ゆかたの着装にとどまらない、きものの良さを味わわせる授業内容とする』

着装実習により生徒のゆかたへの興味関心が高まり、さらに、きもの文化全般への「理解」と「興味関心」に結びつけることができるように、ゆかたにとどまらず「きものの種類・色柄と着用目的や意義に関する知識」を積極的に紹介し、理解を深めるために、人生の節目で行われる通過儀礼（七五三・成人式・結婚式等）とそこで着用されるきものに着目した。通過儀礼は人生に一度限りであることが多く、かつ社会的意味が強いものでもある。こうした場面に日本の伝統として受け継がれてきたきものについて取り上げ、体験的活動を取り入れた学習活動を通して、きものの良さを味わわせ、知識・興味関心を高めることを目的とする教育プログラムを提案し、実践した。

また現代社会における急速な情報化をふまえ、授業内でICTを積極的に活用する方法としてタブレットPCを使用した中継授業により教室にいながらにして専門家の話を聞き、生徒との質疑応答を実施し、結婚式の和装の実物を使用しながらの説明や、きものを身近なものとして感じさせる題材を組み込むことで、きものについての理解を深める手法についても検討した。

## 2. 調査対象と授業の概要

### （1）調査対象と実践時期

埼玉県さいたま市立中学校の協力を得て、授業は1年生8クラス312名（男子181名、女

子131名)を対象に実施した。授業は平成26年6月から7月にかけて、各クラス50分・3時間構成とした。

#### ○生徒の実態

生徒の実態を把握するため、きものに関するアンケート調査を実施した。生徒のこれまでのきものの着用経験率は男子が70% (126名)、女子が83% (109名)であり、男子は女子に比べ、着用経験が少ないことが分かった。その着用場面は男女ともに「七五三」が最も多く、男子は約半数、女子は約9割の生徒が「七五三」を経験し、そこできものを着用している。また、きものの中で最もカジュアルなゆかたに関しては、「お祭り」「温泉」「花火大会」等着用する機会が多いようだが、ゆかた以外のきものに関しては、「七五三」で着たきりの生徒が多かった。

さらにきものへの興味関心については、全体的に低い傾向であった。特に男子の興味関心の低さは顕著で、「着付け」「色柄」「歴史」等どの分野においても、「興味はない」と回答した生徒が多かった。

### (2) 授業体制と内容の工夫

生徒数は1クラス約40人、授業場所は被服室である。授業は、家庭科教師とTAの2名体制で行ったがTAの関与はゆかた着装師範と着装実習補助のみにとどめた。

1時間目は、はじめに前時までの刺し子学習に関連させ、「麻の葉」や「紗綾形」等の伝統的文様と「その文様が示す意味」について説明し、きものの学習へ自然に移行するよう配慮した。次に、きもの実物とスライドで着用場面を提示し、通過儀礼の中でも生徒の着用経験率が高かった「七五三」、さらに将来を見据えて「成人式」「結婚式」の意味やその時に着用するきものについて解説した。その後、班に男女1枚ずつゆかたを配付し、ひろげたり羽織ったりしながら、きもの特徴を考えさせた。また、教師がゆかたの正しいたたみ方を示範した後、ゆかたをたたむ練習をさせた。

2・3時間目は、100分の授業で、はじめに着装を通してきものの良さを体感させた。教師とTAが男女のゆかたの着付けを示範して、男物と女物の着つけ方や形の違いを学習した後、男女別に2～3人のグループとなり、着るモデル役と着付け役の生徒を決めた。モデルの身長に対応したサイズのゆかたを配付し、帯は色や柄を多種類揃え自由に工夫してコーディネートできるようにさせた。着装後、モデル全員を前に並べて、教師の助言をもとにコーディネートや着方について考えさせた。ゆかたを片付けた後、授業のまとめとして、きものに用いられる文様や柄、四季の彩りを感じさせる色や和菓子等の身近な日本文化をパワーポイントのスライドショーで紹介し、きものの良さについて考え、記述させた。このうち2クラスでは、まとめの前にタブレットPCを使用して、大学の研究室や結婚式場と20分程度の中継を実施した。中継のねらいとしては、教室にいながらにして専門家の話を聞き、きものに関しての知識を得られ、きものについての理解を向上させることである。中継のない6クラスでは、教師が実物展示を用いて説明をした。

以下に授業に用いた指導案を示す。

### 3. 授業実践（指導案例）

#### （1）題材名 「きものの良さを味わおう」（全3時間）

#### （2）題材設定の理由

##### ○題材観

現在、日本の伝統的なきものを日常的に着ている人は、とても少なくなっている。こうした現象には機能性の問題や生活様式の変化など様々な理由が考えられる。しかし、きものは日本の伝統衣装として、長い歴史をもち現在に受け継がれており、世界中で「Kimono」と呼ばれ、施される染め・織り・刺繍・文様などの意匠や技術は芸術にまで高められ日本を代表する伝統文化の一つとなっている。学習指導要領に和服の取り扱いが明記されていることもふまえ、きものの良さを味わわせることにより、日本の伝統的衣文化に関心をもたせたい。

きものは、今日では趣味や儀礼的な衣服として着用されることが多いが、伝統文化としての価値や、洋服とは異なる良さについても考えさせたい。これらの学習を通し、きものの良さに気付き、自分の今後の衣生活に生かそうと工夫する態度を育てていきたい。

##### ○指導観

本題材の軸として、通過儀礼で着用されるきものに着目した。通過儀礼は人生に一度限りであることが多く、個人の生活とかかわるものであり、かつ社会的意味が強いものである。こうした人生の節目の場面に用いられ、日本の伝統として受け継がれてきたきものを中心として取り上げる授業構成とする。

まずは、きものの着用場面の中で通過儀礼である七五三・成人式・結婚式について、式の意味やその時着用するきものを学習し、将来きものを着用することに対する興味関心を向上させたい。また、きものと洋服との比較による基本的構成の違いや、きものの特徴についても理解させたい。和服の基本的な着装については、生徒にとって最も身近と考えられる「ゆかた」を取り上げる。ゆかたの着装実習を通し、きものに慣れ親しみ、着心地の違いなどから着装の楽しさを味わわせたい。そして、衣文化への関心を高めるとともにきものの良さに気付かせ、受け継いでいくべき日本の衣文化の重要性や、今後の自分の衣生活について主体的に考えさせ、視野を広げさせたい。

#### （3）目標および展開

##### ○【1／3時】の目標

- ・通過儀礼の意味とそこで着用されるきものを知り、衣文化への関心を高める。
- ・きもの基本的な構成を知り、洋服との違いを理解する。

##### ○展開

過程	学習活動	時間	教師の働きかけ	教具
導入	○刺し子に使われている文様を思い出す（前時の復習）	5	○スライド資料で、刺し子に使われている文様の写真（麻の葉、七宝、青海波、紗綾形）を提示し、文様の名前と意味を簡単に説明する。	スライド資料

導入			○日本の伝統的な衣服である「きもの」には、このような文様が多く使われ願いが込められていることを知らせ、スライド資料で提示する。	スライド資料
	学習課題：きものに触れ、きものの良さを考えよう			
	○きものの着用場面を考える	5	<b>① 七五三・成人式・結婚式で着用するきもの</b> ○きものを着用している様々な場面の写真を、スライド資料で提示し、どのような場面かを考えて発表、ワークシート①に記入させる。(人生の節目(七五三・成人式・結婚式)、特別な外出(正月・夏祭り)、伝統芸能(歌舞伎・茶道)、武道(剣道・弓道))	スライド資料 ワークシート①
	○七五三・成人式・結婚式の意味と着用されるきものを知る	15	○七五三のお祝いの意味を知らせる。それぞれの年齢のきもの実物を見せ、スライド資料でも写真を提示する。 ○成人式の意味を知らせ、和装である紋付羽織袴と振袖の実物を見せ、スライド資料でも写真を提示し、文様(百花や亀甲)や金箔の使用についても説明する。 ○結婚式の意味を知らせ、和装は、紋付羽織袴、白無垢・色打掛であることを知らせる。それぞれのきものの写真をスライド資料で提示する。	七五三のきもの スライド資料 紋付羽織袴 振袖
	○洋服との違いを確認する	5	<b>② きものと洋服の違い</b> ○スライド資料できものの写真を提示しながら、きものと洋服の違いを確認していく。 ・形が決まっている ・固定するもの(ボタンなど)がない ・全身をおおう ・直線的に見える	スライド資料
	○ゆかたに触れ、きものの良さを考える	10	○グループ毎に男物のゆかた1枚を配布し、羽織ったりたたんだりしながら、気付いたことをワークシート①に記入させる。 ①ボタンなどの代わりに、どのように固定するのだろう？ →帯や紐をしめる(次時、ゆかたの着実習) ②どのようにたたんで、しまっておくのだろう？ →正しいたたみ方でたたむ(たたみ方の示範) ③きものは形が決まっているが、どのように個性を出すのだろう？ →色、文様など ○教師がゆかたのたたみ方を示範する。	スライド資料  男物のゆかた (グループに1枚)  ワークシート①
展開	○たたみ方の示範			男物のゆかた
	○きものの良さを考え、記入する	5	○今日の授業で見つけたきものの良さを、ワークシート①に記入させる。 ○ゆかたを回収する。 ○ワークシート①を提出させる。	ワークシート①
まとめ				

## ○評価

- ・七五三・成人式・結婚式で着用するきもに関心をもつ。(関心・意欲・態度)
- ・七五三・成人式・結婚式で着用するきものや、きもの特徴について理解する。(知識・理解)

## ○【2・3／3時】の目標

- ・ゆかたの着実習を通してきものの良さを体感する。
- ・きものを含めた日本の伝統文化への関心を高め、学んだことを今後の生活と関連させて考える。

## ○展開

過程	学習活動	時間	教師の働きかけ	教具
導入	○前時の振り返りと、 本時の授業の流れの把握	5	○各班に、身長調査をもとにゆかたを配布する。 ※生徒には座席表通りに座ってもらい、記載されているサイズのゆかたを授業開始前に机の上に置いておく。 ○きものの着用場面や、きもの特徴など、前時に学習した内容を思い起こさせる。 ○本時の授業の流れ（示範→着装体験→中継授業→まとめ）を説明する。	男物のゆかた、女物のゆかた（クラスごとに記載されている枚数）
展開	学習課題：きものに触れ、きものの良さを味わおう			
	○グループでモデルを決める	5	<b>1 ゆかたの着装</b> ○班の中で男女別に2～3人グループになり、モデル（机の上に置いてあるゆかたのサイズに合う人）を決める。 ○ゆかたに合う色・柄の帯を選ばせ、腰ひも・伊達締めとともに配布する。（帯や小物は、「帯置き場」に置いておく） ○男物→女物の順に、着付けの示範をする。 ○グループで協力しながらゆかたを着装させる。 ○ワークシート②を配布し、着装の感想を記入させる。 ○ゆかたの帯結びの様々なアレンジの写真を、スライド資料で紹介する。	角帯・半幅帯、腰ひも、伊達締め
	○着付けの示範 ※教師：男物 TA：女物	10		
	○ゆかた着装体験	20		
	○感想記入	5		
	○ゆかたをハンガーにかける	5		
○ワークシート②を配布し、着装の感想を記入させる。	5	ワークシート② スライド資料		
休憩10分				
展開	○結婚式で着るきものを知る	20	<b>2－1 専門家との中継授業（2クラス）</b> ○タブレットPCを使用した、結婚式場または大学の研究室との中継を行う。紋付羽織袴や白無垢・色打掛・黒留袖の実物を見せてもらいながら、色・文様のことや帯についての説明を受ける。	タブレットPC プロジェクター



展 開		20	<b>2-2 実物展示の説明（6クラス）</b> ○教室に展示されているきものの種類や文様、履物・小物の用途について説明する。	白無垢、紋付羽織袴、振袖、履物、小物
ま と め	○日本の伝統文化を知る     ○きものの良さを考え、記入する	20     10	<b>3 伝統文化と生活との関わり</b> ○きものに用いられる文様や柄、四季の色や和菓子等の身近な日本の伝統文化を紹介する。 ○スライド資料や前時の学習内容をふまえて、「通過儀礼」を含め様々な場面できものを着る機会があることを確認する。 ○「きものは日本の伝統衣装として現在に受け継がれている」こと、「季節や場面に合わせた色や文様のきもので、自分らしさを表せるとよい」ということを伝える。 ○3時間の授業をふまえてきものの良さを考え、ワークシート②に記入させる。 ○ワークシート②を提出させる。	スライド資料          ワークシート②

#### ○評価

- ・ゆかたの着装に、意欲的に取り組む。(関心・意欲・態度)
- ・結婚式で着用するきものや、日本の伝統文化に関心をもつ。(関心・意欲・態度)
- ・ゆかたと帯の色・柄の組み合わせについて考え、工夫する。(創意工夫)
- ・着物に関する基礎的な知識について理解する。(知識・理解)

## 4. 中継授業

現代社会における急速な情報化によって、授業内でのICTの活用は多様化しており、実物を観察することが困難な場合でも映像の配信によって生徒が「きもの」をより身近なものとして捉えることが出来るのではないかと考え、中継授業の方法や内容の検討に入った。2クラスでは、タブレットPCを用いて、大学の研究室または結婚式場と20分程度の中継を実施した。中継には、動画のライブ中継アプリ「TwitCasting」を利用した。「TwitCasting」には配信用と閲覧用があり、教室と中継先に各2台のタブレットPCを用意した。中継先から配信された動画は教室で閲覧、教室から配信している動画は中継先で閲覧できる。なお、教室に設置した閲覧用のタブレットPCには、プロジェクターとスピーカーを接続し、スクリーンに投影してクラスの全生徒が一度に閲覧できるようにした。配信動画は非公開であり、教室と関係者だけが閲覧できる設定とした。中継のシステム概略図を図1に示す。

中継の内容としては、専門家による結婚式のきものの種類や文様等の話を聞いた後、質疑応答の時間を設けた。中継で紹介したきものは、「白無垢」「色打掛」「掛下」「黒紋付」「色紋付」「袴」「羽織」「黒留袖」である。

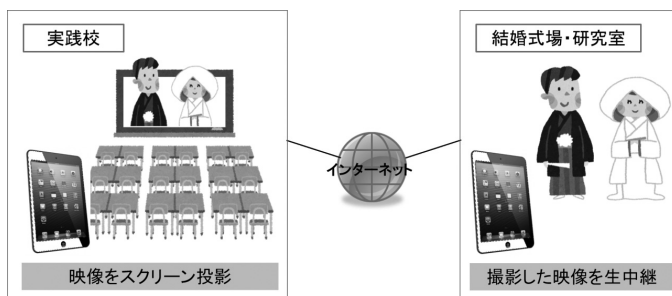


図1 中継のシステム概略図

## 5. 教 具

### (1) スライド資料

1時間目では、刺し子学習に関連させ、伝統的文様である麻の葉・七宝・青海波・紗綾形について、写真を提示しながら文様と意味を説明した。次に、ワークシートと照らし合わせられるよう、きものの着用場面を写真で提示し、通過儀礼である七五三・成人式・結婚式については、その時着用するきものを詳しく説明した。また、きものの形が分かる写真を数枚提示し、洋服との違いを確認させた。

2・3時間目では、ゆかたの着装実習の後に、帯結びの様々なアレンジについて、写真を用いて紹介した。授業のまとめとしては、きものに用いられる文様や柄、四季の色や和菓子等の身近な日本文化を紹介した。最後に、「きものは日本の伝統衣装として、現在に受け継がれている」こと、「きものを着る場面では、季節や場面に合わせた色や文様などで、自分らしさを表せるとよい」ということを伝え、文章でも提示した。

### (2) 実物展示

七五三の三才・七才用のきものと、振袖・紋付羽織袴は、大学から貸し出した。振袖・紋付羽織袴については、ボディに着せたものを教室に展示した。宮参りと七五三の五才用のきものは、家庭科教師が用意した。白無垢・履物・小物に関しては、家庭科教師の知人の厚意で、授業期間中、教室に展示した。

### (3) ワークシート

1時間目用にワークシート①、2・3時間目用にワークシート②を作成した。

ワークシート①では、きものの着用場面を「人生の節目（七五三・成人式・結婚式）」「特別な外出（正月・夏祭り）」「伝統文化（歌舞伎・茶道）」「武道（剣道・弓道）」に分類して写真とともに提示した。本授業で着目した「通過儀礼（人生の節目）」においては、七五三・成人式・結婚式に焦点を当て、式の意味やその時に着用するきものについて、文章とイラストを記載した。また、きものの形と簡単な部位名称を示し、洋服との違いをまとめた。きものの特徴に関しては、「固定の仕方」「たたみ方」「個性の出し方」の3点について、ゆかたの実物を羽織ったりたたんだりしながら気付いたことを記入させた。最後



に、授業で学んだことをふまえて、きものの良さを見つけて、記入させた。

ワークシート②は、ゆかたの着装実習での立場と、中継の有無により、4種類作成した。4種類はそれぞれ、「(ゆかたの着装実習で)モデルになった生徒+中継有」用、「着付けた生徒+中継有」用、「モデルになった生徒+中継無」用、「着付けた生徒+中継無」用である。ゆかたの着装実習の感想とともに、モデルになった生徒にはゆかた着装時の気持ちを、着付けた生徒にはモデルの印象と似合うと思うゆかた・帯の色柄を記入させた。中継を実施したクラスでは、中継授業への意識と、よかったところ・よくなかったところを記入させた。最後に、3時間の授業をふまえて、きものの良さを考え、記入させた。

なお、ワークシートの記載内容についての分析は、別途、報告の予定である。

#### (4) ゆかたの着装実習

2・3時間目の着装実習では、時間と場所の制約から、ゆかたを着る生徒を絞り、2～3人のグループ学習とした。ゆかたの半数はレンタル品を用い、残りのゆかたと帯・腰ひも・伊達締めは、大学から貸し出した。女子のゆかたは、おはしりを整える時間を短縮するため、あらかじめ揚げをしておいた。帯はゆかたとの色柄を考えて、生徒自身が選択できるようにした。その他、腰ひも(男子用・女子用)とマジックテープ式伊達締め(女子のみ)を用意した。

### 6. 授業の様子



図2 授業風景(1時間目)



図3 授業風景（2・3時間目）

## 7. 結果と考察

### （1）中継授業に対する意識

2クラスで実施した、大学の研究室や結婚式場との中継授業の効果を考察する。中継実施後の、「中継を取り入れる授業を、どのように思いますか?」という質問には55名（71%）が「よい」、8名（10%）が「どちらでもない」と回答し、「よくない」と回答した生徒はいなかった。中継授業に対しては、おおむね肯定的な回答が得られた。

### （2）中継授業の長所・短所

中継に関して「良かったところ」と「良くなかったところ」を自由記述してもらい、集計したものを表1にまとめた。生徒たちは専門家に教えてもらえたことや質問ができたこと等、中継という新しい学習経験に対して、新鮮さや楽しさを感じたようだ。これは藤田らの指摘する臨場感の高い活動の実現<sup>8)</sup> がもたらした結果と言えよう。また、「画質が悪い」「音が途切れる」等の映像面や、「話が速い・長い」「結婚式以外のきものも見たい」等の内容面の指摘があり、1クラスでは質問時間を設けることができなかった反省もあった。映像面では、今回は中継にWi-Fiルーターを使用したのが、中継先・教室ともに有線LANを使用することで、映像の問題は大幅に改善できるものと推測される。授業で容易に活用できる中継機材の導入が必須であるが、録画をしておき質問のみを電話で対応する、という方法も考えられる。内容面では、生徒の年齢に合わせて質問内容や中継時間等を考慮することが課題であるが、実物がなくても知識を深める方法として教材化を検討したい。

表1 中継授業の良かったところ・良くなかったところ

	記 述 内 容	人数
良かったところ	分かりやすい・詳しい	20名
	質問ができた	17名
	専門家に教えてもらえる・貴重・学校ではできない	14名
	実際にきものの着付けを見ることができる	11名

良くなかったところ	リアルタイムで聞くことができる		10名
	いろいろな文様を見ることができる		9名
	楽しい		1名
	将来役に立つ		1名
	映像の問題	画質が悪い・ぼやけている	18名
		音が途切れる	17名
		かくかくしている・画面が止まる・重い	8名
		音と画面がずれる	1名
	内容の問題	話が速い・話が長い	3名
		結婚式以外のきものも見たい	1名
		質問ができなかった	1名
	そ の 他	中継でなくてもよい	2名

### (3) 授業の効果

結果① 『公立中学校教師が、実現可能な授業内容とする』についての考察

本授業実践は教室環境や授業のスタイルを公立中学校教師が実現可能な授業内容とした。TAは着装実習の際にだけ教室内を巡視し指導を行い、他の学習活動の際は普通の授業通りとした。着装実習では、グループ学習によりゆかたを着装する生徒を3分の1程度に絞ったため、どのクラスも20～30分で着付けを終えることができ、時間に余裕のあったグループは、モデルを交代して積極的に着付けに取り組んでいた。男女ともに帯結びや腰ひも結びに苦戦している生徒が多かったが、一度習得すると教師の手を借りなくとも自分たちできれいに結べる生徒もみうけられた。着装者の数、グループ分けの方法、授業の準備などを工夫することによって、一人の教師による着装実習を組み込んだ授業が可能であることが示唆された。ゆかたの調達法としては個人所有のものを使用する方法もあるが、レンタルゆかたの利用による比較的容易・安価な教材の準備も提案できた。

中継は、時間制約が大きく、準備も含め協力者に負担をかけることになったが、担当教師は、「ゆかたを着つける体験学習の喜びを生徒たちから感じ取ることができた」、「一連の授業と課題が単元全体の内容に膨らみを持たせられるものとなった」、「今後は全員に着装を体験させる授業を行いたい」と話しており、体験学習が適度な緊張感とともに達成感をもたらし教師においても充実した授業実践となった。

結果② 『ゆかたの着装にとどまらない、きものの良さを味わわせる授業内容とする』についての考察

本授業実践は、ゆかたに限らず、人生の節目で行われる通過儀礼とそこで着用されるきものに着目したきものに関する内容を積極的に取り入れることを試みた。

「きものの良さ」に対する生徒の記述からは、1時間目と比べ「日本の伝統衣装として受け継がれてきた」ことにきものの良さや誇りを感じている生徒が大きく増加した。中には「日本文化を外国に伝える品」というような内容もあり、きものが海外にも誇れる日本

文化であると捉えている生徒もみられた。これは、着装実習のみならず、きもの文化全般に目を向けた学習内容を取り入れた授業の効果であると考ええる。授業を通して成人式・結婚式の際に着用するきものについての知識を得たこと、そして実物や実際に着用している写真を見たことで、「着てみたい」という気持ちを抱いた生徒が増加した。ICT活用による中継は実物がなくても知識を深める方法としての可能性が認められたが今後の検討課題も多かった。また、生徒の記述には「受け継がれてきたもの」という過去の視点や「受け継いで行ってほしい」という主観的でない視点からのものが多く、この伝統を今度は自分たちが未来に「受け継いで行く」という意欲的な気持ちを生徒たちに芽生えさせることの必要性が示唆された。

このように、本実践では普段の授業形態を大きく変えることのない教育プログラムを提案し、さらに、ゆかた着装の楽しさを体感させ、通過儀礼を通して日本の伝統衣装であるきものを身近な存在として感じさせる狙いが達成され、きもの文化継承のための教育プログラムの一例として有効であることが示された。

#### (4) 新たな授業の提案

一連の授業を通し、本実践の有効性ととともに新たな課題も生まれた。そこで、本実践を土台としつつ、課題解決のための新たな試みとして「通過儀礼」と「年中行事」に焦点を当て、家庭科の各領域を横断的にまたがる授業を提案したい。年中行事は、一生のサイクルで訪れる「通過儀礼」と異なり一年のサイクルで訪れるため、生徒にとってより身近である。衣生活領域との関わりでみると「きもの」を着用しない行事も多く存在するが、年中行事の意味やその時に食べるもの・過ごし方等の様々な内容に触れることで、実生活にも生かしやすく、年中行事は日本に古くから伝わる習わしであり、『日本文化』にも結び付く授業構成が期待できる。さらに、成人式・結婚式といった将来への希望・憧れをもつきっかけになるように通過儀礼も取り入れ、人生を長いサイクルと短いサイクル両方で考えられるような、『D身近な消費生活と環境』にも関連した授業づくりも可能であろう。

年中行事は、1月から12月まで多くの行事がある。その一例を、行事食や家庭生活との関連とともに以下に示す。

表2 年中行事の例

月	行 事	行 事 食 ・ 家 庭 生 活
1 月	正月・人日の節句（七草）・鏡開き・小正月・成人の日	おせち料理・雑煮・七草粥・鏡餅・初詣・きもの
2 月	節分・初午	恵方巻・いなり寿司・豆まき
3 月	桃の節句・卒業式・彼岸	ちらし寿司・ぼた餅・ひし餅・紅白まんじゅう・ひな祭り・きもの
4 月	入学式・十三参り・花見	花見団子・桜餅・きもの
5 月	八十八夜・端午の節句・母の日	柏餅・ちまき・新茶・田植え・菖蒲湯
6 月	父の日・夏至	衣替え・虫干し

月	行 事	行 事 食 ・ 家 庭 生 活
7 月	七夕・土用	そうめん・精進料理・うなぎ・水ようかん・夏祭り・ゆかた・行水・打ち水
8 月	立秋・お盆	暑中見舞い・お墓参り・すだれ・風鈴
9 月	十五夜・敬老の日・彼岸	おはぎ・月見団子・台風・秋の七草
10月	十三夜	月見団子・紅葉狩り・収穫祭・読書・スポーツ
11月	七五三	千歳飴・紅葉狩り・酉の市・きもの
12月	事始め・冬至・歳暮・大晦日	かぼちゃ・ゆず湯・年越しそば・大掃除・除夜の鐘

## 謝辞

本研究に関して中継にご協力頂きましたフラールガーデン春日部、中條裕文様、長島栄子様に厚く御礼申し上げます。

なお本研究は、平成25・26年度東京学芸大学連合大学院教員プロジェクト研究の助成を得て行いました。

## 引用文献

- 1) 文部科学省；学校教育法（2007）
- 2) 文部科学省；中学校学習指導要領解説 技術・家庭編，59－60（2008）
- 3) 鹿児島県総合教育センター；和服の基本的な着装を取り入れた学習指導の在り方 指導資料 技術・家庭（家庭），34（通巻第1620号），1－4（2009）
- 4) 清田礼子；家庭科における伝統や文化を尊重する態度を育てる効果的な授業の在り方ー日本の伝統的な和服のよさについて学ぶ学習を通してー，山梨県総合教育センター（2010）
- 5) 川端博子他；ゆかたの着装を題材とする授業実践の試み，日本家庭科教育学会誌，56（2），78－89（2013）
- 6) 川端博子他；文化の伝承を手がかりとする衣生活学習への試みーゆかたの着装を題材とした教育プログラムの検討ー，埼玉大学紀要 教育学部，62（2），67－81（2013）
- 7) 薩本弥生他；きもの文化の伝承をめざしたゆかたの着装を含む教育プログラム開発のための中学校技術・家庭科での授業実践ー教育学部の大学生アシスタントティーチャー（AT）を活用した試みからー，横浜国立大学 教育デザイン研究，第4号，35－44（2013）
- 8) 藤田英明他；モバイルメディアを利用した教室と学校外の体験の場を「つなぐ」学習プログラムのデザイン，日本教育工学会論文誌，32（3），323－332（2008）

Proposal for an Educational Program to Experience Appreciation for the Kimono  
Report on a Teaching Practice Conducted at a Public Junior High School  
Focused on the Rites of Passage

OUGIZAWA Michiko, KAWABATA Hiroko, NAGASAKI Shoko  
ISHIKAWA Atsuko, ITO Taiga, ABE Eiko, SATSUMOTO Yayoi

Keywords: Proposal for educational program, The rites of passage, Public junior high school

In this study, we conducted an educational program that focused on the following two points in order to propose classes in public junior high schools that dealt with Kimono.

- ① Propose class contents feasible for public junior high school teachers to conduct.

This educational program consisted of 3 classroom periods, and was carried out in the usual classroom environment and style as much as possible. When in shortage of the Yukata, we used rental Yukatas, and students learnt how to wear the Yukata through pair learning. Because students in the first year of junior high school were the targets, we aimed to encourage pleasure and elation and not an evaluation on wearing skills.

- ② Propose class contents that are not limited to wearing the Yukata but encourage appreciation for Kimono.

In order to promote “understanding” and to provoke “interest and concern” towards the Kimono culture as a whole, we focused on the rites of passage performed at the turning points of our lives and Kimonos worn at such moments, stressing on the “knowledge about the types, colors, patterns, purpose and significance of such Kimonos”.

In addition, we studied the possibility to utilize ICT for broadcast class that allowed students to interact with specialists while being in the classroom and deepen their understanding on the Kimono.